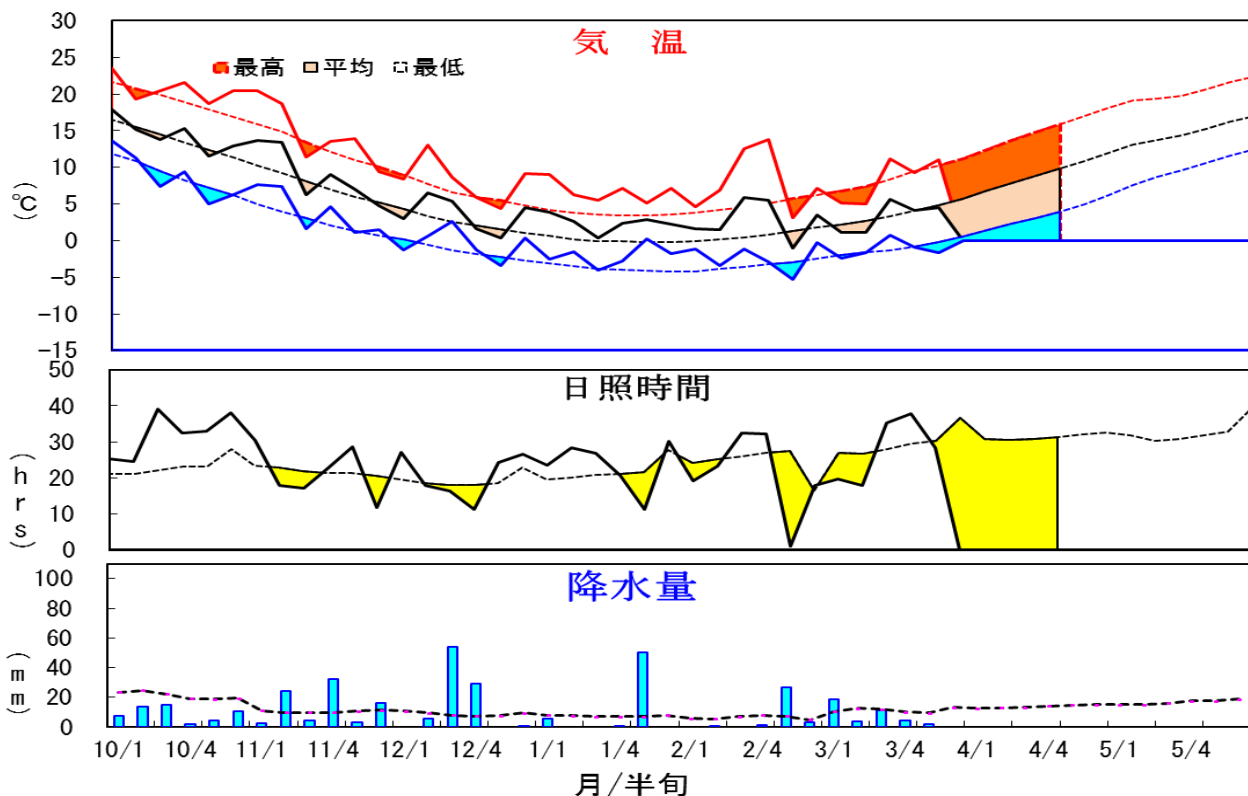


# 麦作情報第4号

令和6年 3月29日：JA全農みやぎ

～出穂期は、大麦では3～5日、小麦では3～7日早まる見込み～

## 1 これまでの気象経過



## 2 東北地方の1か月予報【3月30日～4月29日までの天候見通し 気象庁HPより】

- ・東北太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。期間の前半は、気温がかなり高くなる見込み。
- ・気温は、高い確率 70%，平年並みの確率 20%，低い確率 10%。
- ・降水量は、平年並みの確率 40%，多い若しくは少ない確率 30%。
- ・日照時間は、平年並みの確率 40%，多い若しくは少ない確率 30%。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	東北地方	向こう1か月 03/30～04/29	10 (Low)   20 (Normal)   70 (High)
		1週目 03/30～04/05	10 (Low)   20 (Normal)   70 (High)
		2週目 04/06～04/12	10 (Low)   20 (Normal)   70 (High)
		3～4週目 04/13～04/26	10 (Low)   40 (Normal)   50 (High)
降水量	東北地方	向こう1か月 03/30～04/29	30 (Low)   40 (Normal)   30 (High)
日照時間	東北地方	向こう1か月 03/30～04/29	30 (Low)   40 (Normal)   30 (High)

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

### 3 生育状況

#### (1) 古川農業試験場内 作況試験ほ場（3月20日現在、画像含む）

- ・草丈及び葉数は、いずれの品種・区も平年を上回っている。
- ・中旬播種区の茎数は、平年比 77～101%で、平年並み～やや少ない。
- ・下旬播種区の茎数は平年比 89～141%で、概ね平年並みと思われる。

	品種・区分	草丈			茎数			葉数		
		本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本/m <sup>2</sup> )	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (枚)	前年差 (枚)	平年差 (枚)
大麦	シュンライ 中旬	14.5	91	107	717	71	77	9.0	0.2	1.7
	同 下旬	12.6	106	121	765	85	89	7.8	0.4	1.5
	ミノリムギ中旬	16.2	103	119	871	75	87	9.3	0.8	1.7
	同 下旬	13.8	105	120	1117	117	133	8.1	0.3	1.3
小麦	シラネコムギ中旬	16.5	106	113	885	85	99	8.8	0.2	1.0
	同 下旬	14.3	91	116	1101	91	117	8.4	0.5	1.4
	夏黄金 中旬	13.9	101	116	941	85	101	8.7	0.1	1.3
	同 下旬	11.6	93	114	1020	141	141	7.9	0.6	1.4

注1) 中旬は10月19日、下旬は10月31日に播種。

注2) 中旬播種区の平年値は、過去7か年中の最高値と最低値を除いた5か年の平均値。

注3) 下旬播種区は平成29年播種から供試のため、平年値は過去5か年の平均値。

- ・大麦の幼穂長は 3.3～5.1mm で、平年より 1.1～2mm 長い。いずれも幼穂形成期に達している。
- ・小麦の幼穂長は 1.7～2.4mm で、平年より 0.4～1mm 長い。いずれも幼穂形成期に達している。

	品種・区分	幼穂長			幼穂形成始期		
		本年 (mm)	前年差 (mm)	平年差 (mm)	本年 (月日)	前年 (月日)	平年 (月日)
大麦	シュンライ 中旬	5.1	▲ 0.6	1.8	1/5	1/5	1/28
	同 下旬	4.2	0.8	2.0	2/12	3/2	3/3
	ミノリムギ中旬	4.4	▲ 0.4	1.4	1/16	1/14	2/8
	同 下旬	3.3	0.1	1.1	2/13	3/2	3/4
小麦	シラネコムギ中旬	2.0	▲ 0.7	0.4	2/23	3/6	3/10
	同 下旬	1.7	▲ 0.4	0.6	3/6	3/11	3/19
	夏黄金 中旬	2.4	▲ 0.5	1.0	2/24	3/4	3/10
	同 下旬	1.8	▲ 0.4	0.7	3/5	3/11	3/20

注1) 中旬播種区の平年値は、過去7か年中の最高値と最低値を除いた5か年の平均値。

注2) 下旬播種区は平成29年播種から供試のため、平年値は過去5か年の平均値。

注3) 幼穂形成始期: 幼穂長が1mmに達した日。



【作況試験 シュンライ 10月19日播種】



【作況試験 シュンライ 10月31日播種】



【作況試験 ミノリムギ 10月19日播種】



【作況試験 ミノリムギ 10月31日播種】



【作況試験 シラネコムギ 10月19日播種】



【作況試験 シラネコムギ 10月31日播種】



【作況試験 夏黄金 10月19日播種】



【作況試験 夏黄金 10月31日播種】

## (2) 減数分裂期, 出穂期, 開花期の本年予測値 (3月20日現在)

・出穂期は、大麦では平年より3～5日、小麦では平年より3～7日早い見込みである。

	品種・区分	減数分裂期			出穂期			開花期		
		本年 (月日)	前年 (月日)	平年 (月日)	本年 (月日)	前年 (月日)	平年 (月日)	本年 (月日)	前年 (月日)	平年 (月日)
大麦	シュンライ 中旬	4/13	4/5	4/15	4/22	4/18	4/25	4/29	4/25	5/2
	同 下旬	4/15	4/13	4/18	4/24	4/22	4/29	4/30	4/30	5/7
	ミノリムギ中旬	4/16	4/11	4/19	4/25	4/22	4/29	5/2	4/27	5/5
	同 下旬	4/19	4/16	4/21	4/28	4/26	5/3	5/4	5/2	5/9
小麦	シラネコムギ中旬	4/21	4/18	4/26	5/2	4/27	5/5	5/12	5/9	5/14
	同 下旬	4/23	4/21	4/27	5/3	4/30	5/7	5/14	5/12	5/17
	夏黄金 中旬	4/20	4/18	4/26	4/29	4/27	5/6	5/11	5/9	5/14
	同 下旬	4/22	4/21	4/27	5/1	4/30	5/7	5/13	5/11	5/16

注1) 中旬播種区の平年値は、過去7か年中の最高値と最低値を除いた5か年の平均値。

注2) 下旬播種区は平成29年播種から供試のため、平年値は過去5か年の平均値。

注3) 減数分裂期: 幼穂長が3cmに達した日。

注4) 出穂期: 全茎の40～50%が出穂した日。

注5) 開花期: 全穂数の40～50%が開花した日。

注6) 予測値は予測シートver4.0を用いた値。

**県中部・県南部は、出穂がさらに早まる所もある**

## 4 今後の技術対策

### (1) 排水対策

- ・節間伸長期から登熟期にかけては、特に湿害に弱い。粒の充実不良により千粒重が軽くなり、収量・品質が低下する。また、隣接ほ場に水稻が作付けされている場合は、横浸透によって水が浸入するので、排水対策を徹底する。
- ・寒さで明渠が崩れているところが見られるので、ほ場をよく見回り、停滞水が発生している場合は早急に改善する。

### (2) 麦踏み

- ・幼穂長が3mm以上になってからの麦踏みは、麦の生育に有害になるので、晩限としては茎立ち（主稈長2cm、幼穂長2mm程度）までとする。
- ・3月20日現在の幼穂長から判断すると、大麦は適期を過ぎており、小麦も終盤と思われる。

### (3) 追肥

- ・幼穂形成期の追肥は有効茎歩合を向上させ、穂数を確保する。幼穂長が2～3mmの時が目安で、この頃から茎立ちし、幼穂や節間の伸長が急激に進む。
- ・幼穂形成期頃の窒素栄養状態の悪化は有効茎歩合の低下を招くが、窒素を過剰に施用すると節間伸長により倒伏の原因となるので、適期・適量施用に努める。
- ・追肥時期が遅れると、効果が十分に得られないので、幼穂長を確認し適期に実施する。

追肥の種類 (生育ステージ)		幼穂形成期 (幼穂長2～3mm)	減数分裂期 (幼穂長30mm)	穂揃期 (8～9割が出穂)
目的		有効茎歩合増加 (穂数の確保)	一穂粒数の増加 登熟良化	小麦の子実タンパク質 含有率の向上
大麦	時期	シュンライ, ホワイトファイバー ミノリムギ	2月下旬～3月中旬 3月上旬～4月上旬	4月下旬 4月下旬～5月上旬
	10aあたり 施用量	窒素成分2～2.5kg (硫安10～12kg)	窒素成分2～2.5kg (硫安10～12kg)	硬質麦防止のため 実施しない
小麦	時期	3月下旬～4月中旬	4月下旬～5月上旬	5月中旬
	10aあたり 施用量	窒素成分2～2.5kg (硫安10～12kg)	窒素成分4～5kg (硫安20～25kg)	窒素成分2～2.5kg (硫安10～12kg) ※「夏黄金」は2倍

「ホワイトファイバー」の栽培では、健康に有益な機能性を持つ水溶性食物繊維（β-グルカン）の含有率を維持するため、減数分裂期の追肥は右図を参考とする(宮城県普及に移す技術96号)

